

お逢者ですか？ 結核について

飯塚 邦彦

今年平成24年の9月24日から30日は結核予防週間でした。皆さん結核なんて過去の病氣と誤解していませんか。いい結核は間違いなく現代の病氣なのです。

世界遺産登録をめざしている富岡製糸工場が現役のころ、結核は「国民病」「亡国病」と恐れられ日本人の死因第1位でした。NHKのドラマ「坂の上の雲」でも香川照之演ずる正岡子規が脊椎カリエス（背骨の結核）に苦しみながらも俳句を作り続ける姿が描かれていました。日本では生活水準の向上や保健所を中心とした公衆衛生活動、そして抗結核薬の使用で結核は舞台のセンターからは外れましたが、舞台を降りたわけではありません。今でも毎日64人の新しい患者が発生し、6人亡くなっているのです。そういえばお笑いタレントや群馬県出身の男性ファッションモデルが肺結核で入院、療養のため活動休止したなど思い出した方も多いことでしょう。国内では未だ毎年2万3千人以上の結核患者が発生しています。群馬県では平成23年263人の新規患者が登録され、県内で34人の方がこの病氣が原因で亡くなっているのです。

1882年にロベルト・コッホが発見した結核菌ですが、人類と結核菌どちらが先

に地球上に出現したのでしょうか。最近の遺伝子研究によれば実は結核菌の方が新参者なのです。ヒトの遺伝子、ゲノム解析は21世紀になされました。ヒトのミトコンドリアやY染色体という遺伝子解析から、現代人は15万年ほど前にアフリカで生まれ、4〜5万年前にアフリカから世界中に広がったというのが定説です。結核菌のゲノム解析を行うとその祖先（非結核性抗酸菌）は350万年前に環境中にいたようですが、それがヒト専門に感染するように進化した、すなわち結核菌が誕生したのは3万5千年前あたりの中央アジアのようです。空気感染する結核は文明の発達と人口の増加とともに更に進化し、9,000年前のメソポタミア文明の人骨やエジプトのミイラから子規と同じ脊椎カリエスの病変や結核の遺伝子が分離されています。

結核の症状自体は力ゼなどと類似しており、症状だけで結核と決めつけることはできません。しかし微熱、咳などの症状が良くならずに2週間以上持続する場合や、半年で3kg以上の体重減少、あるいは寝汗など思いあたる方は結核の可能性も考えて、もよりの医療機関を受診してください。注意する点として、結核の患者の中には最初は肺炎と診断されて治療を受ける人がいることです。これは熱や咳があつてレントゲンで影があるという所見は肺炎と共通しているので区別が難しいためです。さらに複雑なことにニューキノロンと呼ばれる抗菌薬は種々の細菌性肺炎によく効く重宝な薬ですが、これが結核菌にも部分的に効いてしまつて一時的

に症状が改善してしまうことがあります。しかし、結核が完全に治ることはないのです。しばらく後に症状がぶり返します。事実、薬の効きにくいマイコプラズマ肺炎として紹介となった若い結核患者さんが当院にもいらつしました。

こんなわけで結核の可能性を考へて2週間以上長引く力ゼ症状があつた場合は医療機関を受診する、定期健康診断を受けて健康管理を行うなどの注意が今日でも重要なのです。

